平成 24 年度　春期　情報セキュリティスペシャリスト試験　採点講評

午後Ⅱ試験

問１

問 1 では，インターネット向けサーバにおける災害対策を題材にして，そこで必要となる情報セキュリティ対策について出題した。全体として正答率は高かった。

設問 3(1)は，メールの転送を行わないサーバやインターネットとの間でメールの転送を行わないサーバを挙げた解答が散見された。本文及び図表をよく読めば正答を導けるはずである。

設問 3(2)は，正答率が低かった。SPF（Sender Policy Framework）の仕組みの説明が誤っている解答や，SPF 以外の手法を述べた解答が目立った。SPF は迷惑メールに対する有効な対策の一つである。SPF の仕組みをよく理解しておいてほしい。

設問 4(2)は，プロキシサーバ及びプロキシ DR サーバの機能を用いた解答を求めたにもかかわらず，存在しない機能を述べた解答が目立った。本文，図表及び設問をよく読み，求められていることを理解した上で解答してほしかった。

問２

問 2 では，社内システムのクラウドサービスへの移行及び個人所有の携帯端末の導入を題材に，クラウドサービス及び携帯端末を業務で利用する際のセキュリティ上のリスクとその対応について出題した。全体として正答率は低かった。

設問 1(2)は，正答率が低かった。クラウドサービスへの移行によってメールサーバが社外に置かれるということを考慮せずに，社外へのメールの誤送信や平文でのメールの送信を挙げた解答が多かった。

設問 4(2)は，改造ツールに脆弱性が含まれる可能性について述べた解答が多かった。改造ツールをインストールした携帯端末に感染するマルウェアが存在することも事実ではあるが，そうしたマルウェアも携帯端末に導入されているセキュリティ機構が無効化されて初めて動作が可能となることに気づいてほしかった。

設問 5(2)は，技術的対策として，ファイアウォール又は IPS によるアクセス監視や，プロキシの設定の強制によるアクセスの制限を挙げた解答が散見された。前者では無線 LAN での通信を防ぐことはできず，後者ではブラウザを利用しない外部との通信を防ぐことができない。本文に記述された前提や設問で触れられた条件に注意した上で，どのような対策が最も効果的かを十分に吟味して解答してほしかった。